

平成~~24~~年 2月22日

政 務 調 査 報 告 書

栗山町議会議長 鵜 川 和 彦 様

栗山町議会議員 ハ木橋 義則

このたび、政務調査のため出張しましたので次のとおり報告します。

日 時	平成 24 年 2 月 15 日 13:30 ~ 16:30
視 察 先	岩手県岩手郡葛巻町
調査事項	新エネルギー-施設等視察
対 応 者	総合政策室長 総務企画課長 農林環境エネルギー課 深澤口 和則・村中英治・鈴木 美知代
1. 視察目的 2. 視察内容 ①背景 ②特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	1. 北緯40度ミルクとワインとグリーンエネルギーの理想郷 2. 基幹産業 ・酪農(ミルク) 牛の飼育頭数 約11,000頭「東北一の酪農郷」 (乳牛約10,000頭、肉牛約1,000頭) 牛乳生産量 約40,000t/年 約110t/日 ・林業(ワイン) 自生の山ぶどうを使ったワイン作り カラマツ集成材→建築用材 ・新エネルギーの導入(グリーンエネルギー) (風力発電、太陽光発電、バイオマスなど) ①背景 天と地と人のめぐみを活かして 平成11年3月策定した「葛巻町新エネルギービジョン」では基本理念 としては、風力や太陽光などの「天のめぐみ」、畜産ふん尿や水力などの 「地のめぐみ」、豊かな風土・文化を守り育てた「人のめぐみ」を柱に据え ており、国民の理解を得ながら新エネルギーの導入に積極的に取り組 むこととしております。 ②特徴 葛巻中学校太陽光発電システム

葛巻中学校太陽光発電システムは、校舎改築にあわせ整備し葛巻中学校生徒をはじめ町内全学校の児童生徒はもとより、地域住民に対しても地球環境保全と新エネルギーの関心を高めさせ、さらに県内外に向けた情報発信基地として、啓発できる施設になればと願っているとの期待感が見られる。

3. 主な質疑

新エネビジョン 自然と人間との共生について

グリーンエネルギー導入 → 魅力ある町・魅力ある町民へ

○ きっかけ

★ 地域資源も活用した町の魅力づくり

・ 「自然と人間に豊かに生きる町」の宣言（1995年）

★ 地球温暖化防止京都会議（COP3）

・ 温室効果ガスの排出規制

★ エコ・パワー社から風力発電の打診

★ 町民の理解・協働

・ 町議会全員による海外視察

4. 考察

葛巻町新エネルギー等導入事業費補助金について

葛巻町では、地域の環境保全や地球温暖化防止推進のため、住民の多くが環境負荷の少ない新エネルギー設備等を導入する場合に補助金交付している。

最後に葛巻町長～鈴木重男氏のメッセージ

なんでもそうですが、ある日、突然、アイデアがひらめいて、うまくいった、というようなことは、まず、起こりえないでしょう。それは果報は寝て待つ、と同じで、ありません。自分でいって夢を描いて、それに挑戦することが大事です。なかには夢で終わるものもありますが、しかし夢を描いていなければ、目標、理想がないのと同じで、何も生まずに終わります。

日 時	平成 24 年 2 月 16 日 13:30 ~ 15:30
視 察 先	岩手県 岩手郡 滝沢村
調査事項	・ 議会改革の取組について ・ 自治基本条例制定に当たり議会の関わりについて
対 応 者	議長 山谷 仁, 副議長 斎藤 健三, 総務常任委員 熊谷 初男, 議会運営委員 佐藤 澄子, 議会運営副委員 熊谷 初男, 議事務員 中道 俊之
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	・ 滝沢村議会の改革の取り組み経過について ・ 滝沢村自治基本条例の策定に関する経過について ① 滝沢村は人口 54000 人日本一の村となっており、平成 26 年市政施行を目標としております。現在では、平坦部より民間宅地開発、事業所、大学の立地が進み、都市化が進行し、街路や下水道などの都市基盤整備に取り組んでいます。特に本村東部地域は、平成 10 年に岩手県立大学が開学し、盛岡大学などの私立大学、岩手県立農業高校、試験研究機関等が集積している。 ② これまでの自治への改革におけた独自の活動が着実な成果をあげていることに高い評価を受け、2006 年度日本経貿品質賞地方自治体部門を受賞しています。 議会としては、議会情報の積極的な発信を行い、住民に開かれた議会として意欲的に議会の活性化に取り組んでいることに高い評価を受け、各都道府県から推薦のあった 34 議会の中から特に顕著な実績があると認められ、平成 23 年度町村議会特別表彰を受章されております。 ③ について ・ 一般質問の円滑な進行のため、質問者が登壇する都度、直前に質問席に答弁資料を配付する。かつ確認のための質疑を行う。 ・ 平成 23 年次期改選期より、議員定数を 22 名から 20 名に決定する。かつ、市政施行は平成 26 年度に目標を置いていますが、市政施行後の定数を増やすことを考えているのか。今後の課題になると思います。

- ・ 政務調査費については平成15年5月より議員1名につき月2万円とし、会派又は議員に交付する。となっていたが平成23年度より議員1名につき月1万5千円とし、会派又は議員に交付することとした。については議員の中には交付額を余す議員もいたので減額することにした。
- ・ 議会に対する住民アンケート調査を実施している（関心度・評価・改革・定数・報酬・政務調査費など全23項目）397件 27%
- ・ 若者が日頃感じていることを語り合うことによって村政に関心を持ってもらい政治を身近に感じさせる機会として新成人者と新成人議会を開催する。「滝沢村の未来への提言!! みなさんの思いを滝沢村から全国に発信しよう!!」

自治基本条例制定に当たり議会の関わりについて

- ・ 平成23年8月20日～市政フォーラムたきざわ～地域の想いと未来を創るための住民委員会
7-7ジョブなど 10代～約550名参加 創造会議参加募集
- ・ 平成23年9月16日～ 37名 第1回（仮称）滝沢村価値創造会議創設に向けた会合
12月26日 34名 第4回（シ）の終了後～ 第1回たきざわ未来創造会議
- ・ 平成24年1月28日～2月24日まで第4回たきざわ未来創造会議を開く予定となっている
たきざわ未来創造会議～住民自らが地域への想いや、地域で暮らすためのルールを定めて成果を報告書とし、村長及び議会議長に提出し、住民発の自治の基本となる条例の制定を目指すことを目的とする。

① パブリックインボルブメント企画部会

自治の基本に関する条例策定のため、住民の方々と意見交換し、住民の意見を集約する部会。

② 広報部会

創造会議の活動内容について、広く住民の方々にお知らせする部会。

③ 原案起草部会

滝沢に合った自治の基本に関する条例策定についての報告書を策定する部会。

4. 参 考

平成12年2月1日には人口5万人を達成し人口日本一の村となる。現在は約5万4千人。住民協働で第5次滝沢村総合計画を策定し「人、人、人、地域、人、自然が共栄に生き生きと輝く『たきざわ』を10年後の将来像として、地域は、地域皆人なぞく」をスローガンに各種施策を展開している。